

新年のご挨拶

貿易・運輸部会 部会長／理事
MOL (ASIA OCEANIA) PTE LTD
Director
高村 健太郎



シンガポール日本商工会議所の会員の皆さま、新年あけましておめでとうございます。謹んで新春のお慶びを申し上げます。旧年中には会員の皆様には格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。私自身、シンガポールで新年を迎えるのが3回目となります。皆さまも様々な場所で新年を迎えられていることと思います。シンガポールは雨季とはいえ暖かい（暑い）南国の年始であり、それに慣れてしまいましたので、もはや冬の日本に帰国しても風邪をひきそうで、まともに新年を迎えられる自信がありません。

昨年の2023年を振り返りますとシンガポールにおいては、もはやコロナを感じることもなくなり、すべてがノーマルに戻った一年であったと言えるのではないかと思います。

お陰様で貿易・運輸部会においては、2020年3月以来、4年ぶりに部会での懇親ゴルフを開催することができました。インドネシアのバタム島のゴルフ場でプレイしましたが、コロナが厳しいところはHARBOUR FRONTのフェリーターミナルは閉鎖され、買い物等で訪れる度に、いつになったらここにまた照明が灯されるのだろう、と思っていたのが思い出されました。第一工業部会との合同懇親ゴルフも開催させて頂き、部会を跨いだ交流も行いました。ほぼノーマルに戻った喜びを改めて感じさせて頂いた次第です。

また、毎年恒例となっております港湾視察は、2015年から開発が始まりコロナを経て2022年9月に公式にオープンしたばかりのPSA TUAS SINGAPOREにて実施することができました。コロナがまだ厳しい2021年に完成したPSA TUAS MAINTENANCE BASEよりTUAS TERMINALの全景を望んだあと、TERMINAL内とCONTROL CENTERを見学しました。こちらのTERMINALはGPSなどの最新技術によりTERMINALのOPERATIONが全部ではないのですが自動化されており、それを管理監視するCONTROL CENTERは近未来の現場を彷彿させるものでした。驚嘆することの多い視察でしたが、PSA

の担当者からは、「まだまだ導入したいテクノロジーがあり、そのためには多くの日本企業のサポートが必要。これまで以上のサポートをお願いしたい。」というコメントがあったことは忘れられず、シンガポールの日本への期待はまだまだ高いことを感じました。

今年、私の部会長としての任期は残すところ3か月あまりですが、ドローンテクノロジーが物流業界に与える影響についてのセミナーや、2025年からプラスチックボトルや缶ボトルに課徴金が課され、返却することで返金されるという制度が導入されるのですが、その制度を支えるオペレーションがどのような形で行われるのかを知るための施設の視察会を開催する予定です。奮ってご参加頂けると幸いです。

2022年も大変残念ながら大小様々な紛争が世界中で起こってしまいました。私の所属する外航海運においても、事業を継続するための大前提である本船の安全運航が脅かされる事件が発生していることは大変憂慮されるばかりです。貿易・運輸部会の営む事業は、やはり世界の平和が前提とされるものであることを改めて感じる次第です。シンガポールや日本において散歩をしたり、スポーツをしたり、趣味に興じたり、東の間の休息を取る時などに、今まで以上に平和であることをひしひしと感じます。世界の平和を脅かす、人々の憎悪がこれ以上に増幅せず、少しでも改善していくことを心より祈るばかりです。そのような国や地域に住む人々が豊かな暮らしを営めるようになることが、解決する手段の一つではないかと時折考えます。貿易・運輸部会の会員の皆様を始めJCCIの会員の皆様のご活躍が世界の平和と人々の豊かな暮らしを実現していくと確信しております。

最後となりますが、2024年の会員の皆様のご健康と更なるご活躍を心より祈念させて頂きまして、私の新年のご挨拶とさせて頂きます。本年もJCCIの活動に変わらぬご高配を賜りますようお願い申し上げます。